



RIHGA ROYAL BEARへ 寄せる想い



TEARS TEDDY 石井 のぞみ

と呼ばれるドイツのマルガレーテ・シュタイ
フ女史の存在であり、彼女もまた障害を持ち
ながら100年以上も前に、チダイベアを世
界に広めたシュタイフ社の創業者であること
を知ったことです。

あれから何人も人と言葉を交わし、交流
をさせて頂き、チダイベアに触れ、顔を見つ
め、目が合つて、呼ばれているような気がし
て、少しずつ我が家に連れて帰って来たチダ
イベアが、いつの間にか沢山になりました。
そのベアたちに込められた制作者の様々な想
いや温かい心も一緒に……

世界に広がり続ける文化としてのチダイベ
アやその歴史、チダイベアや野生のクマにゆ
かりの深い人物とその関係性、物語や神話の
中のクマやチダイベア、癒しとしてのチダイ
ベアの魅力。

研究や学びは、まだまだとどまることを知
りません。時を重ねれば重ねるほど、その奥
深さを実感しています。チダイベアの世界で
第一線を走り続けている方々はもちろん、チ
ダイベア以外の分野でご活躍中のプロフェッ
ショナルな皆様も、様々な形で私の力になつ
て下さっています。本当にたくさんの方々と
の温かな出会いの中、私の紡いで来た言葉や
TEARS TEDDYのチダイベアたちを通じて、
それが私自身も思いがけないような形で共感
して頂けていることは、とても光栄に思つて
おります。

君の笑顔が涙を誘ふ
く振り返る時

専門誌への連載などを経て、2003年に
はTEARS TEDDY初となるリーガロイヤルホ
テル(大阪)主催のチダイベアフェア、チダ
イベア展「TEARS TEDDYチダイベアに言葉
を添えて石井のぞみ」を2週間にわたり開催
して頂きました。所蔵のベア一匹、一匹に短
い言葉を添えるという形で「TEARS TEDDYの
チダイベアたちをホテル内のリーガロイヤル
ギャラリーやロビー、メインラウンジ等に展
示して頂いたり、チダイベアランチや宿泊プ

ラン、グルメプチック・メリッサでのチダ
イベアスイーツなども実施して頂きました。
全国各地から、チダイベアのお好きな方は
もちろん、ベアに添えた短い言葉を羨しみに
来て下さった方、多数の「TEARS TEDDYのメ
ディア取材記事などを通じ、初めてチダイベ
アをご覧になった方など、多くの方々笑顔
の中で幕を閉じさせて頂いたことを昨日のこ
とのように覚えております。

マルガレーテ自身が生み出したであろうシ
ュタイフ社1904年製のチダイベアやチダ
イの愛称をもつ、第26代大統領セオドア・ル
ーズベルトゆかりの品をはじめ、アメリカ、
イギリス、ドイツ、シンガポール、オランダ
など世界各国から私の元へと来てくれたアー
ティストベア等の「TEARS TEDDY」で見ら
れない作品の数々は、そこに添えた言葉とこ
も大変好評を頂きました。

イベント終了後に寄せられたお便りのお一
つお一つやイベント開催後からずっと私を
支えて尽力下さったホテルスタッフの方々を
含め、沢山の皆様にはどれほどのエネルギー
を頂いたことか分かりません。

この期間の感動が、それ以降のディナーシ
ョー、例えば2004年ホテルプラザオーサ
カ「Tears Teddy Story」だからチダイベ
アと「Tears Teddy Story」のために
にとオリジナル曲を多数作曲、演奏し提供し
て下さった「T-BOLAN」ギタリスト五味孝氏さ
んとのコラボレーションを2006年、現クラ
ウンプラザ神戸での「TEARS TEDDY」石井の
ぞみwith 五味孝氏 in 新神戸オリエンタル
ホテル」や学校訪問、特別授業等、諸所の活
動に繋がって行ったような気がしております。

ほつと出来る時間の中で……
くリーガロイヤルベアの創作依頼を受けて

2003年にリーガロイヤルホテル主催で
イベントを開催して頂いたことがきっかけと
なり、今日まで多岐にわたるご縁を頂く中で、
来年、創業75周年を迎えるリーガロイヤルホ
テル(大阪)から記念ベアの制作・デザイン

何かを発信できたなら……
く思いを託して

何かを発信できたならと日々強く思い続け
る中で、チダイベアに巡り会い、チダイベア
に思いを託し、言葉を紡いで来ました。気が
付けばチダイベアに携わり17年あまりになる
でしょうか。

それは今、思い起こしてみても何か不思議
な方に背中を押されているかのようでした。
自分自身の思いを託し、表現出来るものを
と無我夢中で書物を読み、インターネットも
駆使しながら資料集めなど、懸命にまだ見
ぬ世界の何かを探しに探しました。17年前の
私は学生生活と共に来る日も来る日も密かに
そんな生活を続けたのです。

チダイベアに魅せられるきっかけになった
のは、ある日、ふと目にした海外雑誌に載っ
ていたアーティストベアのモノクロ写真を見

た時からでした。当時、チダイベアの歴史や
文化を全く知らなかった私にも何か語りかけ
てくれるものがあつたのでしよう。生き生き
とした表情と、今にも動き出しそうなベアに
会いたい、触ってみたいとその芸術性に心が
動きました。モノクロ写真のベアは、アメリ
カのコーラ・キャピラスさんの作品で、コン
ベンションの大作でした。

その日からです。チダイベアを様々な角度
からひも解き始めました。

時を同じくしてでしょうか、ますます私を
引き付け、勇気づけたのは、チダイベアの母